

母親学級における精神心理面及び栄養面に 関する指導方針に関する研究

— (2)乳幼児をもつ母親を対象にした学級の場合 —

副 所 長	高 橋 悦 二 郎
研究第 1 部	堀 口 貞 夫 ・ 千 賀 悠 子
研究第 2 部	斎 藤 幸 子 ・ 高 野 陽
研究第 3 部	加 藤 忠 明
研究第 4 部	武 藤 静 子 ・ 水 野 清 子
研究第 5 部	望 月 武 子
研究第 6 部	権 平 俊 子 ・ 山 本 清 恵
研究第 7 部	高 橋 種 昭 ・ 萩 原 英 敏
研究第 8 部	湯 川 礼 子
共同研究者	須 永 進 (足立保育専門学院)

I 研究目的

本研究は昨年度の研究に継続して行われたもので、昨年度は妊産婦を対象にした母親学級に関する研究を行ったが、今年度は乳幼児をもつ母親を対象にした学級について行ったものである。現在においても、乳幼児をもつ母親を対象とした学級は、全国で幅広く各種のものが開かれているが、その全体的な実態については明らかにされていない。今回の研究は、そうした現在行われている母親学級の実態を明らかにすると共に、母親達が母親学級から学んでいるものや、それへの期待、不満などについて調べ、現在大きな課題となっている保健指導活動の一環としての母親学級のあり方や運営・指導方法や内容などについて検討を加え、その充実強化のための方策について考案するものである。

II 研究方法

今回は下記の 3 種類の質問紙を用いた調査を実施した。質問紙調査(1)付 1, 対象は母親学級を実施している側を対象としたもので、全国の保健所 857 か所、人口 5 万以上の都市全部と町村から抽出したものの計 1,198 か所に調査用紙を郵送し、回答を求めた。質問項目の内容は、

学級の内容と受講者である母親に関するものを中心にしたものである。

質問紙調査(2)付 2, 対象は国立公衆衛生院に研修に来院している保健婦 26 名、栄養士 36 名、計 62 名を対象にしたもので、それぞれの立場からみた現在の母親達の印象や指導上の留意点などについて質問したものである。

質問紙調査(3)付 3, 対象は保育園児、幼稚園児をもつ母親と、保健所の健診に来所した乳幼児をもつ母親を対象にして行ったもので、地域は主として東京、神奈川、青森の 3 か所であり、保健所の健診のケースのみ少数宛全国 12 県にわたっている。質問項目の内容は、母親学級についての印象や期待を中心に、育児についての不安や悩み、父親の育児参加などに関する 8 項目からなっている。調査対象とした母親の総数は、1,400 名である。

III 調査結果

質問紙調査(1)について

回収率は保健所の場合は非常に協力的で約 80% の高率であったが、市町村の場合は教育委員会と他の部課との混乱もあったためか約 30% と低調であった。分析は、実施機関別と地域別に分けて行った。

実施状況についてみると、教育委員会が最も多く行っており、約 80% のものが実施しており、次いで市町村・

保健所の順である。保健所は約40%が実施している。(表2-1) 学級を実施しない理由は、予算の関係をあげた所が保健所、市町村に約1割みられる他は、他の機関で行っているからということを経由する所が多くみられた。(表2-2)

母親学級を開催中の子どもの世話、開催者が面倒をみているものが過半数であり、教育委員会の場合は約8割の高率である。(表3-1) 面倒をみるものについては機関によって大きな違いがみられ、保健所の場合は圧倒的に保健婦が多く、次いでグループ内の母親、保母、市町村の職員、ボランティアなどの順であるが、教育委員会の場合はボランティアの母親が約4割もいるのが目立つ。次いで保母が約2割である。(表3-2)

母親学級に参加した母親についての実施者の印象は、育児や子どもの発達についての知識については「ふつう」とするものが殆んどであり、「豊かである」とするものが教育委員会に多く、「貧しい」とするものが保健所にや多くみられる。(表4-1, 4-2)

学習意欲の場合も同じような傾向がみられ保健所、市町村の場合は40~50%が意欲的であるとしているが、教育委員会の場合は70%という高い数字である。(表5-1, 5-2)

指導に対する理解度については、「よく理解する」とするものが教育委員会の約6割を最高に市町村、保健所の順にみられ、保健所と教育委員会の数字は「ふつう」と「よく理解する」が全く逆である。しかし、この数字は教科内容も違い、必ずしも母親の理解力の程度を表わすものとはいえない。(表6-1, 6-2)

父親学級や祖父母を対象にした学級も多く開いて貰いたいものであるが、父親学級は保健所が7%、市町村5%、教育委員会10%であり、祖父母学級は4%、12%、11%と父親学級よりやや多く開かれている。(表7, 8-1) この場合、地域的には祖父母学級が大都市に少なく、町村に多くなっている。(表7, 8-2)

学級の内容についてみると(表9-1, 2, 3) 学習テーマ数は教育委員会が保健所、市町村より多い。実施時期は保健所、市町村では約3割が健診時に行っており、対象も保健所と市町村では約4割が健診来所ケースである。

学級の人数は20~50名が最も多く、次いで11名~20名であるが、教育委員会は20~50名が過半数を占めているのに反し保健所、市町村は20名以下のクラスがかなり多くみられる。

開催形態は1回のみ単発は少なく、多くの学級はシリーズなどの形態をとっている。

学習形式は講義形態のものが各機関とも約半数である

が、他の形態では機関によりかなりの違いがみられ教育委員会は集団討議方式が多い。

1 テーマ当りの学習時間は約4時間である。

教材についても機関により違いが多くみられるが保健所、市町村ではパンフレットやテキストの使用が多く、視聴覚教材は教育委員会で最も多く使われている。

担当者は保健所と市町村では当然保健婦と栄養士が過半数を占めている。教育委員会の場合の専門はその他が過半数を占めているように担当者は非常に広い範囲にわたっている。

協力機関の場合も実施機関により違いが大きい。その中で目立つのは保健所の場合の教育関係機関との協力の少さと教育委員会の児童相談所との協力の少さである。もっと保健と教育、教育と福祉の分野の協力があってよいように思える。

学習科目については(表10-1, 2, 3)に示す如く実施時期や対象、人数などについてみても学習の科目による違いは余りみられない。そのことは学習の形態や教材、担当者などについてもいえ科目による違いは案外に少ない。ということは単一職種の人がかかなり広い範囲の分野の指導を担当しているとも考えられる。

今後の課題については、テーマについてみると基本的な内容のものを行えという意見と同時により具体的に身近なテーマのものを提供すべきだとする意見がみられるし、親子関係や母親自身の精神衛生に関したテーマのものを望む声も多い。(表11-1) 会場についてはもっと広い場所と学習中の保育の場の確保を望む意見が保健所に多くみられる。市町村や教育委員会の場合は交通の便の良さや近い所で行えという意見と保育の場の確保の二つに意見が集中している。(表11-2) 講師、助言者については、保健所からはもっと幅広い専門家を、という意見が圧倒的に多くみられる。(表11-3)

教材については視聴覚教材の利用を、という意見が全般に多い。特に教育委員会にその必要性を認めるものが多い。その他では保健所や市町村に手作りの教材や模型・写真などの展示物の使用を、という意見が多い。(表11-4) 広報活動の不足についてはどの機関も認めており、広報や個人通知、健診時のP.R.の強化を望んでいる。その他地域の人たちの協力や教育機関と連携してP.R.すべきだとの意見もみられる。(表11-5) その他の意見では保育室の開設や集団討議の場の提供を課題とするものも多いし働く母親のための教育の場の必要性を主張しているものもある。(表11-6)

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

表1 回収率

	配布数	回収数	回収率
保健所	857	624	72.8%
市町村	1,198	353	29.5%
全体	2,055	977	47.5%

表2-1 乳幼児をもつ母親を対象とした
(機関別) 学級を実施しているかどうか

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	258 (41.4%)	66 (52.4%)	186 (81.9%)
実施していない	365 (58.6%)	60 (47.6%)	41 (18.1%)

表2-2 学級を実施していない理由
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
予算の関係	37 (9.0%)	7 (10.8%)	0 (0.0%)
意義を認めない	8 (2.0%)	2 (3.0%)	1 (2.6%)
他の機関で行っている	14 (36.2%)	18 (27.7%)	7 (18.4%)
その他の理由	204 (53.8%)	38 (58.5%)	30 (78.9%)

表3-1 学級実施中、子ども達の面倒をみるか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
面倒をみる	151 (57.9%)	45 (55.6%)	148 (79.6%)
面倒をみない	110 (42.1%)	36 (44.4%)	38 (20.4%)

表3-2 面倒みるのは誰か
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
保母	20 (8.0%)	6 (11.5%)	41 (22.4%)
保健婦	109 (43.8%)	15 (28.8%)	0 (0.0%)
指導員	11 (4.1%)	0 (0.0%)	9 (4.9%)
市町村の職員	19 (7.6%)	1 (1.9%)	19 (10.4%)
ボランティアの職員	18 (7.2%)	9 (17.3%)	70 (38.3%)
グループ内の母親達	24 (9.6%)	7 (13.5%)	16 (8.7%)
その他	48 (19.3%)	14 (26.9%)	28 (15.3%)

表4-1 母親の育児や子どもの発達に関する知識の程度
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
貧しい	20 (7.8%)	6 (9.4%)	7 (3.8%)
普通	220 (85.9%)	55 (85.9%)	160 (87.0%)
豊か	16 (6.2%)	3 (4.7%)	17 (9.2%)

表4-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
貧しい	8 (6.7%)	20 (6.3%)	5 (7.1%)
普通	104 (87.4%)	270 (85.7%)	61 (87.1%)
豊か	7 (5.9%)	25 (7.9%)	4 (5.7%)

表5-1 学習意欲
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
意欲がない	5 (2.0%)	1 (1.5%)	2 (1.1%)
普通	144 (56.5%)	31 (46.1%)	53 (28.8%)
意欲的である	106 (41.6%)	35 (52.2%)	129 (70.1%)

表5-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
意欲がない	2 (1.7%)	4 (1.3%)	2 (2.8%)
普通	47 (39.2%)	141 (44.9%)	40 (55.6%)
意欲的である	71 (59.2%)	169 (53.8%)	30 (41.7%)

表6-1 指導に対する理解度
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
理解しない	3 (1.2%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)
普通	190 (74.2%)	42 (65.6%)	69 (37.7%)
よく理解する	63 (24.6%)	21 (32.8%)	114 (62.3%)

表6-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
理解しない	1 (0.8%)	3 (1.0%)	1 (1.4%)
普通	60 (49.6%)	151 (51.0%)	44 (61.1%)
よく理解する	60 (49.6%)	142 (48.0%)	27 (37.5%)

表7-1 父親学級を実施しているかどうか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	26 (7.2%)	4 (5.2%)	20 (10.2%)
実施していない	333 (92.8%)	73 (94.8%)	177 (89.8%)

表7-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
実施している	14 (9.6%)	29 (7.4%)	7 (7.5%)
実施していない	132 (90.4%)	365 (92.6%)	86 (92.5%)

表8-1 祖父母学級を実施しているかどうか
(機関別)

	保健所	市町村	教育委員会
実施している	15 (4.2%)	9 (11.8%)	21 (10.8%)
実施していない	343 (95.8%)	67 (88.2%)	174 (89.2%)

表8-2
(地域別)

	大都市	中小都市	町村
実施している	4 (3.0%)	30 (7.6%)	11 (12.0%)
実施していない	128 (97.0%)	364 (92.4%)	81 (88.0%)

機関別、学級実施内容（昭和58年度）
表9-1

項目 機関	対象 数	学数 習の テ一 マ均	実施時期		対象		人数					開催形態			
			健 診 時	それ 以外 の時	健 診 対 象 者	それ 以外 の 人	10 名 ま で	11 〜 20 名	21 〜 50 名	51 〜 100 名	101 名 以 上	レ ギ ュ ラ ー	シ リ ー ズ	一 回 の み	臨 時
保健所	623	2.54	29.3%	70.7%	41.3%	58.7%	14.6%	34.2%	35.3%	10.6%	5.3%	26.6%	29.5%	40.3%	3.5%
市町村	116	2.85	31.1%	68.9%	39.2%	60.8%	4.8%	31.7%	49.1%	8.9%	5.5%	26.7%	30.4%	38.8%	4.0%
教育委員会	227	6.78	2.7%	97.3%	5.9%	94.1%	1.4%	15.6%	61.2%	15.8%	6.0%	26.4%	43.5%	29.5%	0.6%

表9-2

項目 機関	学習形態				一時 単 位 の 時 間 （ マ マ 学 習 均	教材							担当者					
	講 義	実 習	見 学	集 団 討 議		掛 図	パン フ レ ット	テ キ ス ト	ス ラ イ ド	ビ デ オ	映 画	な し	そ の 他	医 師	歯 科 医 師	助 産 婦	保 健 婦	栄 養 士
保健所	58.2%	20.6%	7.6%	13.5%	4.08	14.8%	38.6%	16.8%	11.0%	2.6%	5.2%	8.2%	2.7%	8.4%	2.6%	1.8%	45.9%	21.0%
市町村	50.2%	25.3%	5.9%	18.5%	4.72	10.6%	43.8%	16.6%	10.0%	2.6%	6.9%	8.4%	1.1%	8.0%	5.8%	3.5%	33.9%	18.8%
教育委員会	52.8%	19.0%	4.4%	23.8%	3.88	2.9%	14.7%	24.1%	4.4%	7.2%	11.1%	33.6%	2.0%	4.5%	1.1%	0.1%	4.4%	6.2%

表9-3

項目 機関	担当者		協力機関							学習									
	心 理 門 教 育 家	そ の 他	保 健 所	児 童 相 談 所	家 相 談 児 童 室	教 育 機 関	保 育 所	地 域 組 織	そ の 他	身 に 関 心 を 持 つ 育 て	精 神 的 に 発 達 す て	栄 養 に 関 心 を 持 つ	生 活 習 慣 と し つ け に 関 心 を 持 つ	遊 び に 関 心 を 持 つ	問 題 児 の 指 導 に 関 心 を 持 つ	小 児 の 疾 病 に 関 心 を 持 つ	安 全 と 事 故 防 止 に 関 心 を 持 つ	そ の 他	
保健所	6.2%	14.2%	41.2%	6.1%	0.9%	4.8%	7.9%	17.0%	22.1%	13.8%	14.3%	13.0%	15.0%	9.4%	3.9%	10.0%	9.9%	10.6%	
市町村	9.9%	20.1%	25.5%	2.0%	6.5%	16.2%	6.5%	24.7%	18.6%	14.0%	15.3%	16.4%	17.8%	11.0%	3.8%	7.4%	6.3%	8.0%	
教育委員会	30.1%	53.7%	6.1%	0.7%	0.5%	40.1%	14.1%	12.1%	26.5%	12.3%	18.1%	7.4%	21.0%	12.3%	2.4%	4.8%	4.8%	16.8%	

学習科目別、学級実施内容（昭和58年度）

表10-1

項目 学習	対象 数	学数 習の テ一 マ均	実施時期		対象		人数					開催形態			
			健 診 時	それ 以外 の時	健 診 対 象 者	それ 以外 の 人	10 名 ま で	11 〜 20 名	21 〜 50 名	51 〜 100 名	101 名 以 上	レ ギ ュ ラ ー	シ リ ー ズ	一 回 の み	臨 時
身体発育について	403	2.47	30.1%	69.9%	40.4%	59.6%	7.4%	25.9%	44.2%	14.7%	7.8%	30.8%	30.2%	36.8%	2.2%
精神発達について	426	2.74	25.6%	74.4%	35.3%	64.7%	6.6%	25.7%	46.3%	14.3%	7.0%	30.0%	34.0%	33.9%	2.1%
栄養について	401	2.15	33.8%	66.2%	43.5%	56.5%	6.9%	29.5%	41.8%	14.6%	7.2%	30.3%	25.9%	41.5%	2.2%
生活習慣としつけについて	459	2.80	24.3%	75.7%	34.3%	65.7%	6.2%	24.9%	45.9%	14.6%	8.4%	30.1%	32.6%	34.9%	2.3%
遊びについて	360	2.17	27.7%	72.3%	36.8%	63.2%	6.1%	27.5%	43.3%	15.3%	7.8%	32.5%	32.6%	32.5%	2.3%
問題児の指導について	135	1.90	31.6%	68.4%	47.4%	52.6%	12.4%	30.2%	39.5%	11.2%	6.6%	41.3%	24.0%	33.5%	1.2%
小児の疾病について	293	2.04	32.8%	67.2%	43.4%	56.6%	7.2%	30.8%	41.7%	13.7%	6.7%	31.4%	26.2%	40.7%	1.7%
安全と事故防止について	273	2.15	39.1%	60.9%	48.9%	51.1%	6.6%	29.5%	40.1%	15.7%	8.1%	31.3%	24.7%	41.4%	2.6%
そ の 他	303	3.02	20.0%	80.0%	27.3%	72.7%	8.0%	21.0%	48.7%	14.4%	7.9%	24.9%	38.6%	34.1%	2.4%

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

表10-2

項目 学 習	学 習 形 態				学 習 科 目 間 際	教 材							
	講 義	実 習	見 学	集 団 討 議		掛 図	パンフレット	テキスト	スライド	ビデオ	映 画	な し	そ の 他
身体発育について	54.0%	18.4%	8.6%	19.0%	84	13.7%	33.5%	17.8%	10.5%	4.9%	7.7%	9.1%	2.8%
精神発達について	56.0%	14.7%	7.3%	22.0%	86	12.4%	30.6%	17.2%	8.9%	6.2%	8.7%	13.5%	2.5%
栄養について	50.6%	25.4%	10.1%	14.0%	90	13.6%	39.7%	19.2%	10.8%	2.7%	6.5%	5.3%	2.3%
生活習慣としつけについて	53.7%	16.6%	7.2%	22.5%	75	11.1%	30.7%	17.3%	9.8%	5.5%	8.8%	14.3%	2.4%
遊びについて	46.1%	24.2%	7.6%	22.0%	97	11.1%	31.4%	17.9%	9.4%	4.6%	8.2%	14.4%	2.9%
問題児の指導について	44.2%	19.2%	7.8%	28.8%	100	12.2%	33.2%	14.9%	8.6%	3.0%	9.1%	12.9%	6.1%
小児の疾病について	57.1%	17.0%	8.8%	17.1%	94	14.9%	35.4%	18.9%	12.8%	3.2%	5.7%	6.8%	2.3%
安全と事故防止について	53.4%	19.5%	10.3%	16.9%	99	15.3%	35.8%	17.4%	12.1%	3.1%	6.0%	7.2%	3.2%
その他	49.8%	21.1%	7.7%	21.5%	92	11.7%	29.9%	18.3%	11.0%	3.3%	8.7%	14.4%	2.7%

※学習科目の重複が少ない「問題児の指導」を100とした場合の価で、価が小さいほど他の学習科目との重複が多いことを示す。

表10-3

項目 学 習	担 当 者						協 力 機 関							
	医 師	歯 科 医 師	助 産 婦	保 健 婦	栄 養 士	心 理 学 専 門 教 育 家	そ の 他	保 健 所	児 童 相 談 所	家 庭 診 談 児 童 室	教 育 機 関	保 育 所	地 域 組 織	そ の 他
身体発育について	9.0%	2.6%	2.1%	38.3%	19.0%	11.0%	18.0%	36.3%	5.6%	1.7%	12.7%	8.3%	13.6%	21.9%
精神発達について	7.6%	1.4%	1.8%	33.7%	15.9%	18.4%	21.1%	28.2%	6.2%	1.8%	18.2%	10.4%	12.6%	22.5%
栄養について	6.2%	3.1%	2.1%	34.1%	34.7%	4.4%	15.4%	37.8%	5.2%	1.4%	9.9%	7.3%	15.1%	23.3%
生活習慣としつけについて	5.9%	2.9%	1.5%	32.2%	16.4%	15.5%	25.7%	25.7%	5.9%	1.8%	20.6%	10.0%	13.8%	22.3%
遊びについて	5.5%	2.2%	1.7%	31.7%	16.1%	15.0%	27.9%	27.0%	7.3%	2.5%	17.6%	11.9%	13.1%	20.6%
問題児の指導について	9.7%	3.1%	2.2%	31.9%	13.5%	18.9%	20.7%	28.9%	14.5%	3.2%	12.7%	12.1%	8.6%	20.1%
小児の疾病について	15.1%	2.8%	2.6%	39.1%	20.8%	5.9%	13.7%	36.3%	6.5%	1.3%	8.2%	8.0%	13.0%	26.6%
安全と事故防止について	9.0%	2.0%	2.3%	39.5%	21.7%	7.4%	18.1%	36.4%	7.2%	1.8%	10.1%	8.2%	11.3%	25.0%
その他	5.0%	3.3%	2.1%	29.7%	13.6%	9.7%	36.5%	21.6%	2.7%	0.2%	21.2%	10.4%	15.4%	28.5%

学級運営の今後の課題

表11-1

1. テーマについて

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. 精神発達、しつけ、遊び、疾病、栄養などの基本的内容		75	18	18
2. 親子関係に関するもの		29	12	18
3. より具体的に身近なテーマを		22	4	29
4. 母親自身の心理的成長・不安の解消など		15	18	0
5. 親の役割、あり方について		12	0	10
6. 親同志の話し合いの場づくり(地域組織の育成)		12	3	6
7. 障害と療育		6	0	0
8. 思春期教育の充実を(性教育などを含む)		6	1	0
9. テーマ別に選択できるもの		2	0	0
10. 祖父母を対象としたテーマを		2	0	0

表11-2

2. 会場について

事 項	機 関 別	保健所	市町村	教 育 委 員 会
1. もっと広い場で(一箇所)		19	0	9
2. 学習中、子どもの面倒・世話できる保育室(託児設備)のある場を		14	11	35
3. 和室(タタミ)で		10	1	1
4. 子どもが遊べる場のあること		10	0	4
5. 交通の便がよく、身近な場で		9	20	48
6. 視聴覚機器が活用できる会場を		4	2	2
7. 戸外でも		3	0	0
8. 学級専用の教室を		2	1	0
9. 安全性の高い場で		2	0	0

表11-3

3. 講師助言者について

事項	機関別	保健所	市町村	教育委員会
1. もっと幅広い専門家		41	18	19
2. (先輩の) 母親を		8	3	14
3. 身近にいる地域の人に		8	0	27
4. テーマにそくした人を		3	2	0
5. 学級の専任講師を		2	0	0

表11-4

4. 教材について

事項	機関別	保健所	市町村	教育委員会
1. 視聴覚教材の利用を		56	15	65
2. 手づくりの教材を		22	10	1
3. テーマに合う新しいものを		11	0	0
4. 模型、写真などの展示物を		8	0	0
5. 子どもの興味をひくものを		8	0	0
6. 個人向けの教材がほしい		2	0	0
7. 思春期教育的な教材を		1	0	0
8. 母子相互関係に関する教材を		1	0	0

表11-5

5. 広報活動について

事項	機関別	保健所	市町村	教育委員会
1. 広報、個人通知および健診時にPRを		67	25	29
2. 地域の組織と協力してPRを		15	2	10
3. テレビを利用して(有線放送を含めて)		4	3	2
4. 教育機関と連携してPRしたい(保育所・幼稚園など)		1	2	16

質問紙調査(2)について

質問紙調査(2)は、保健婦や栄養士が母親達をどのようにとらえ、どのように指導を行っているかについてみたものであるが、結果をみると保健婦と栄養士の間には、やはりその見方や指導上の留意点に違いがみられる。

母親の印象(表12)については、神経質な母親が多いとするものが栄養士に多くみられ保健婦には少ない。このように栄養士が母親を神経質とみるのは、栄養指導の場で食事量や栄養の所要量などに細かく気を使う母親に出会う機会が多いためとも考えられる。干渉が多い母親

表11-6

6. その他について

事項	機関別	保健所	市町村	教育委員会
1. 開催中の子どもの世話・保育の問題		17	4	3
2. 講義だけでなく、参加者の討論形式を加えて		14	2	8
3. 受講生の意見を反映させたい		10	0	0
4. 学級を通じて仲間づくりを(自主的なサークルへ)		10	0	0
5. 仕事をもつ婦人の参加をどうするか		8	3	18
6. 他の機関との連携を		8	3	6
7. 人集めをどうするか		6	5	2
8. 学習内容の充実		6	3	9
9. 父親・祖父母を対象とする学級設置を		6	1	3
10. 親としての自覚をもたせるようなものを		4	0	0

については、共に多いとしており両者の間に差はみられない。

次に指導全般についての留意事項から保健婦、栄養士の指導の目標なり理念をみると(表13)父親の育児参加や、祖父母の育児援助について強く留意しているというのが保健婦に多くみられ栄養士には少ない。同じように家庭環境条件についても保健婦の関心の強さに比べ栄養士の関心はやや低調である。

偏食や少食の指導上の留意点(表14)についても幼児の精神面への留意が保健婦に強くみられるが栄養士の場合はやや弱いようである。遊びや睡眠との関連についても栄養士の関心は保健婦に比べて薄いといえよう。

健康増進の指導の場合も、全く同じことがいえる。(表15)こうした保健婦と栄養士の関心の違いは、やはり専門領域の違いから来るものと考えられる。

質問紙調査(3)について

質問紙調査(3)は乳幼児をもっている母親を対象としたもので、幼稚園、保育園、保健所を通じて1,400名の母親に調査用紙を配布した。回答があったのは857名、回収率61%であった。

調査対象となった母親の年齢は次表の如く30代の母親が68%と一番多い。また家事以外に仕事をもっている母親は592名(69.1%)である。子ども数は一人っ子の家庭が244(28.5%)、2人以上の家庭が613(71.5%)であった。家族構成は核家族260(30.3%)に対し複合家族597(69.7%)と複合家族が三分の二を占めており祖父母との同居家族が多い。

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

表12 母親についての印象

()保健婦

項 目	非常に多い	多 い	それ程でもない	少 ない	非常に少ない	わからない	無 回 答
1. 神経質な母	1 (0)	13 (3)	13 (12)	7 (6)	1 (0)	0 (3)	1 (2)
2. 健診に非協力的な母	1 (0)	3 (0)	5 (0)	11 (16)	12 (9)	1 (1)	3 (0)
3. 指導に対して真剣でない母	0 (0)	2 (0)	7 (6)	18 (12)	8 (6)	0 (1)	1 (1)
4. 育児を他人に押しつけてしまう母	0 (0)	5 (1)	4 (6)	12 (9)	12 (7)	2 (1)	1 (2)
5. 育児に対して非親的な母	0 (0)	0 (1)	2 (8)	16 (6)	14 (9)	3 (1)	1 (1)
6. 夫同伴で受診する母	2 (0)	1 (1)	3 (4)	9 (8)	19 (12)	0 (1)	2 (0)
7. 子どもに無関心な母	0 (0)	0 (0)	2 (5)	17 (7)	15 (13)	1 (1)	1 (0)
8. 虐待している母	0 (0)	0 (0)	0 (1)	4 (5)	21 (16)	8 (3)	3 (1)
9. 大人びたしつけを強要する母	0 (0)	4 (4)	2 (7)	12 (8)	12 (3)	5 (4)	1 (0)
10. 干渉の多い母	1 (0)	13 (13)	9 (8)	5 (2)	4 (1)	3 (2)	1 (0)
11. 育児が風潮に流されてる母	0 (2)	10 (8)	12 (6)	2 (7)	8 (1)	3 (2)	1 (0)

表13 指導全般についての留意事項

()保健婦

項 目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無 回 答
1. 家族構成	0 (0)	0 (0)	3 (1)	19 (4)	14 (21)	0 (0)
2. 家庭の職業	0 (0)	4 (0)	6 (2)	21 (14)	5 (10)	0 (0)
3. 家庭の経済状態	1 (0)	6 (1)	10 (3)	15 (14)	2 (8)	2 (0)
4. 対象乳幼児の健康状態	0 (0)	0 (0)	0 (1)	8 (2)	28 (21)	0 (1)
5. 対象乳幼児の発育状態	0 (0)	0 (0)	3 (1)	7 (3)	26 (21)	0 (1)
6. 対象乳幼児の発達状態	0 (0)	1 (0)	2 (1)	11 (3)	22 (20)	0 (0)
7. 母親の年齢	0 (0)	3 (0)	10 (4)	20 (17)	3 (5)	0 (0)
8. 母親の就労状況	0 (0)	0 (0)	4 (4)	25 (8)	7 (14)	0 (0)
9. 母親の健康状態	0 (0)	2 (0)	6 (1)	19 (8)	9 (17)	0 (0)
10. 昼間の保育者	0 (0)	0 (0)	2 (2)	21 (11)	13 (13)	0 (0)
11. 祖父祖母の育児援助	0 (0)	1 (0)	3 (2)	21 (12)	11 (12)	0 (0)
12. 父親の育児参加・援助	1 (0)	9 (0)	11 (3)	13 (16)	1 (7)	1 (0)
13. 住居環境の災態	2 (0)	5 (0)	11 (8)	14 (11)	3 (7)	1 (0)

表14 偏食・少食などの指導上の留意事項

()保健婦

項 目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無 回 答
1. 幼児の精神発達状態	0 (0)	2 (0)	7 (3)	16 (8)	11 (14)	0 (1)
2. 幼児の情緒発達	0 (0)	2 (0)	10 (1)	13 (7)	11 (17)	0 (1)
3. 幼児の身体発育状態	0 (0)	0 (0)	1 (4)	15 (6)	20 (15)	0 (1)
4. 幼児の運動発達	0 (0)	3 (0)	4 (4)	15 (9)	14 (12)	0 (1)
5. 幼児の遊びの状況	0 (0)	4 (0)	2 (2)	17 (8)	13 (15)	0 (1)
6. 幼児の睡眠の状況	0 (0)	5 (0)	5 (5)	14 (9)	12 (11)	0 (1)
7. 幼児の保育者の種類	0 (0)	0 (0)	2 (2)	21 (8)	13 (15)	0 (1)

表15 健康増進についての指導上の留意事項

()保健婦

項 目	全く留意しない	どちらかと言えば留意しない	どちらとも言えない	どちらかと言えば留意している	強く留意している	無 回 答
1. 対象児の身体発育状態	0 (0)	2 (0)	3 (3)	13 (7)	17 (16)	1 (0)
2. 対象児の精神発達状態	0 (0)	2 (1)	12 (2)	9 (4)	12 (19)	1 (0)
3. 対象児の運動発達状態	0 (0)	1 (1)	7 (2)	17 (4)	10 (19)	1 (0)
4. 対象児の病名の状況	0 (0)	0 (0)	3 (2)	14 (5)	18 (19)	1 (0)
5. 家族構成	0 (0)	1 (0)	7 (1)	14 (13)	13 (12)	1 (0)
6. 母親の就労の状況	0 (0)	0 (0)	3 (3)	20 (13)	12 (8)	1 (2)
7. 母親の健康状態	0 (0)	0 (0)	5 (3)	22 (9)	8 (14)	1 (0)
8. 対象児の睡眠の状況	0 (0)	1 (0)	8 (2)	15 (7)	11 (15)	1 (2)
9. 乳幼児の遊びの災態	0 (1)	3 (0)	6 (2)	17 (4)	9 (18)	1 (1)
10. 対象児の食生活	0 (0)	0 (0)	1 (2)	6 (5)	27 (18)	2 (1)
11. 住宅の状況	1 (1)	7 (0)	10 (5)	15 (13)	2 (6)	1 (1)
12. 住宅付近の環境	0 (1)	7 (1)	10 (4)	15 (9)	3 (10)	1 (1)
13. 対象児の保育の状況	0 (0)	0 (0)	8 (1)	17 (6)	10 (17)	1 (2)
14. 対象児の友達	1 (2)	4 (0)	9 (1)	15 (8)	6 (14)	1 (1)

表16 調査対象

調 査 対 象		人 数	%
調 査 対 象		857	100.0
地 域 別	北海道・東北	246	28.7
	関東	541	63.1
	中国・四国・九州	70	8.2
年 齢 別	20 代	225	26.3
	30 代	583	68.0
	40 代	49	5.7
有職業 無の	あ り	592	69.1
	な し	265	30.9
学 歴 別	中 学 卒	101	11.8
	高 校 卒	452	52.7
	短大以上卒	304	35.5
の子ども 数も	1 人	244	28.5
	2 人以上	613	71.5
形家 態族	核 家 族	260	30.3
	複 合 家 族	597	69.7

集計は各質問毎に地域、年齢、職業の有無、学歴、子ども数、家族構成の六つの条件別に行なったが、紙面の都合で各問毎に六条件別に触れることはせず、合計とその他は特徴のある条件別について述べることにする。

1) 母親の実態について

母親学級運営のためには先ず受講者となる母親の育児に対する意識や実態を理解しておく必要があると思われたので、育児に対する自信の有無、子どもの生活や食事上の困った事、心配な事の有無、育児について学んだために迷った事の有無、父親の育児参加に対する意見と父親に対する不満、母親自身の子どもの頃と現在の環境について質問した。

① 育児に対する自信の有無

現在育児に自信があるかをたずねたが、その結果は表17に示すように「やや自信がない」と思っている母親が過半数の59%であり、「自信がある」のは26.7%で大部分の母親は概ね自信をもって育児に当たっているとみることができるが、一方「自信がない」と答えている母親が1割強ある。これを年齢別にみると年齢が進むに従い育児経験が豊かになり「自信がある」が増加している。しかし「自信がない」は年齢が進んでも減少の傾向はみられず年齢その他に関係なく1割前後の母親は自信を持てず

に育児に当たっているとみることができ、この母親たちには母親学級等において何らかの援助が必要と思われる。

② 子どもの生活・食事で困ったことの有無

つぎに子どもの生活や食事に困ったこと、心配なことの有無をみると、「心配がなかった」22.1%に対し「あ

表17 育児に自信がありますか

		自信が ある	やや自信 がない	自信が ない	無記名	計
実 数		229	504	99	25	857
%		(26.7)	(58.8)	(11.6)	(2.9)	(100.0)
年 齢 別	20代	48	144	28	5	225
	%	(21.4)	(64.0)	(12.4)	(2.2)	(100.0)
	30代	163	338	64	18	583
%	(28.0)	(58.0)	(11.0)	(3.0)	(100.0)	
40代	18	22	7	2	49	
	%	(36.7)	(44.9)	(14.3)	(4.1)	(100.0)

表18 生活・食事で困ったことがあったか

		なかった	あった	無記入	計
実 数		189	656	12	857
%		(22.1)	(76.5)	(1.4)	(100.0)
年 齢 別	20 代	49	172	4	225
	%	(21.8)	(76.4)	(1.8)	(100.0)
	30 代	122	453	8	583
%	(20.9)	(77.7)	(1.4)	(100.0)	
40 代	18	31	0	49	
	%	(36.7)	(63.3)	(0)	(100.0)
学 歴 別	中 学 卒	39	59	3	101
	%	(38.6)	(58.4)	(3.0)	(100.0)
	高 校 卒	100	346	6	452
%	(22.1)	(76.6)	(1.3)	(100.0)	
短 大 卒	50	251	3	304	
	%	(16.4)	(82.6)	(1.0)	(100.0)
子 ども 数	1 人	53	186	5	244
	%	(21.7)	(76.3)	(2.0)	(100.0)
	2 人以上	136	470	7	613
%	(22.2)	(76.7)	(1.1)	(100.0)	

表19 困ったこと・心配なことの内容（複数回答）

		発育・発達	病 気	栄養・食事	生活・育児	困ったこと ありの人数
実 数		212	208	331	299	656
%		32.3	31.7	50.5	45.6	
年 齢 別	20 代	64	60	88	64	172
	%	(37.2)	(34.9)	(51.2)	(37.2)	
	30 代	143	142	229	217	453
%	(31.6)	(31.3)	(50.6)	(47.9)		
%	40 代	5	6	14	18	31
%	(16.1)	(19.4)	(45.2)	(58.1)		
学 歴 別	中学卒	17	13	33	22	59
	%	(28.8)	(22.0)	(55.9)	(37.3)	
	高校卒	104	98	175	152	346
%	(30.1)	(28.3)	(50.6)	(43.9)		
%	短大卒	91	97	123	125	251
%	(36.3)	(38.6)	(49.0)	(49.8)		
子 ども 数	1 人	62	68	105	74	186
	%	(33.3)	(36.6)	(56.5)	(39.8)	
%	2人以上	150	140	226	225	470
%	(31.9)	(29.8)	(48.1)	(47.9)		

表20 育児の話をきき迷ったことの有無

	あ る	な い	無記入	計
実 数	243	559	55	857
%	(28.4)	(65.2)	(6.4)	(100.0)

た」は76.5%になっている。母親の学歴別にみると学歴が高くなるに伴って「心配なことがあった」が増加している。心配なことの内容は表19に示すように、「栄養・食事に関すること」が50%強で一番多くなっている。次いで「生活や育児に関する問題」が多く、「発育や発達に関すること」「病気に関すること」の順になっている。母親の年齢別では「発育・発達」「病気」「栄養・食事」は母の年齢が高くなるに従って減少しているが、「生活・育児」に関する問題は逆に増加しており、子どもの年齢との関係とみることができる。また、困ったこと、心配なことを子どもの数で比較してみると、子ども数が2人以上になると「発育・発達」「病気」「栄養・食事」は減少するが、「生活・育児」に関することはひとりっ子の

時よりも2人以上になった方が困ったことが多くなっており、きょうだいの扱いについて困ることが増加している。

③ 育児について学んだために迷ったことの有無
子どものことで困ったこと、心配なことが育児について話をきいたり勉強したために余計迷ってしまうことがあったか、また迷いを生じたものは何かを質問した。その結果は（表20）、話をきいたためにかえって迷ってしまったことがあると答えた人は28.4%であった。母親を迷わせたものの中で一番多いのが育児書（43.2%）、次いで友人・知人の話（40.7%）であり、医師、保健婦を挙げるものもそれぞれ1割強あった。その他具体的に授乳や食事に関すること、しつけや育児に関する問題、病気の際の処置など人により、本により言うことが異なるので迷ったと訴えている。（表21）

④ 父親の育児参加について

母親は父親が育児に参加することを望んでいるかを質問したが、殆んど母親はそれを望んでおり（94.4%）、母親の年齢、学歴、母親の職業の有無、子ども数、家族形態に関係なく90%以上の母親が父親の育児参加を希望

表21 迷いを生じたもの

	育児書	テレビラジオ	友人・知人の話	医師の話	保健婦の話	学級等の 集団指導	その他	迷ったことが ある人数
実数	105	51	99	29	27	10	19	243
%	(43.2)	(21.0)	(40.7)	(11.9)	(11.1)	(4.1)	(7.8)	

している。母親たちはどのような参加を望んでいるかをみると「母親の精神的な援助」が一番多く53%、次いで「困った時に手伝う」が43%であり、22%は「いつも育児を手伝う」よう望んでいる。母親の職業の有無で比較すると「いつも育児を手伝う」ことを希望するのは無職の母親9.8%に対し職業をもつ母親は3倍の28.3%であり家事・育児と仕事を両立させていくためには当然の要求であろう。子ども数と父親の育児参加の関係をみると「いつも育児を手伝う」のを望んでいるのは子どもがひとりの場合は29.2%で、2人以上(19.9%)より10%も多くなっている。子どもがひとりだけの時よりも子ども数が多くなる程母親は忙しくなり夫の手助けを必要とするのかと思っただが、これは予想に反した数字であり、ひとりっ子、即ち第一子の場合は育児に対する不安から夫もいつも育児と一緒にやってほしいという願いかもしれない。家族形態では「いつも育児を手伝う」ことを希望してい

るのは核家族に多く(25.3%)、複合家族は(16.0%)祖父母の手助け、援助が得られるからであろう。

表22 父親が育児に参加するのを望みますか

	はい	いいえ	無記入	計
実数	809	19	29	857
%	(94.4)	(2.2)	(3.4)	(100.0)

⑤ 現在の父親達に不満がありますか

この質問は自分の夫に対する不満ではなく、現在の父親一般に対する不満の有無である。その結果は表24に示すように不満のある人が(50.2%) 不満のない人(42.7%)を上回っている。不満の理由としては「自分勝手(41.4%)」「家庭より仕事を優先する(35.6%)」を挙げている人が多い。「頼りない」と思う人は11%あり、その他

表23 どのような参加を望みますか

		いつも育児を 手 伝 う	時 ど き 困 っ た 時 等 に 手 伝 う	母親の精神的 な 援 助	そ の 他	父親の育児参加 を 望 む 人 数
実 数		182	351	431	47	809
%		(22.5)	(43.4)	(53.3)	(5.8)	
職 業	あ り	157	213	282	34	555
	%	(28.3)	(38.4)	(50.8)	(6.1)	
な し	な し	25	138	149	13	254
	%	(9.8)	(54.3)	(58.7)	(5.1)	
子 ども 数	ひ と り	66	95	112	10	226
	%	(29.2)	(42.0)	(49.6)	(4.4)	
2 人 以 上	2 人 以 上	116	256	319	37	583
	%	(19.9)	(43.9)	(54.7)	(6.3)	
家 族 形 態	核 家 族	143	245	300	34	565
	%	(25.3)	(43.4)	(53.1)	(6.0)	
複 合 家 族	複 合 家 族	39	106	131	13	244
	%	(16.0)	(43.4)	(53.7)	(5.3)	

の自由回答の中には「育児は共同で行うものである」「子どもの遊び相手をしてやってほしい」「父親としてもっと厳しさが欲しい」の不満を述べている人がかなりあり、毎日の育児をめぐっての不満が多いようである。母親の職業の有無で父親に対する不満をみると、母親が職業をもっている人の方が不満が強く、不満なし38.9%に対し不満ありは53.2%であり、職業をもたない専業主婦は不満なしが半数以上の51%で不満ありは43%である。不満の内容は「自分勝手」が職業の有無に関係なく一番多く(41%)になっている。「家庭より仕事を優先する」という不満は職業のない母親に多く「頼りない」は職業をもつ母親の方が多い。「その他」の「育児は共同でやるべき」

「子どもの遊び相手になってほしい」は職業ありの母親に多くなっている。

家族形態では複合家族では不満あり44.2%に対し不満なし(50.4%)の方が多いが、核家族では不満なし(39.4%)より不満あり(52.8%)が多い。「自分勝手である」が複合家族に多く(複合家族51.3%, 核家族37.8%), 「頼りない」は核家族に多い(複合家族6.1%, 核家族13.3%)。(表25)

⑥ 母親が子どもの頃について

今回調査対象となった母親たちの背景を知るために子どもの頃の環境について質問した。その結果は表26に示すように「自分の子をもつまで赤ちゃんや小さい子に接したり世話をした経験がない」母親が30%みられた。「家族と一緒に食事することが少なかった」は5%、「インスタントや店屋ものの食事が多かった」は僅か2%である。現在は食生活の問題がいろいろ指摘され子どもだけで食事をしたり、外食産業が盛んなために既製のものですませる家庭も多くなっているが、調査の対象となった母親たちが子どもの頃には家庭で作った食事を家族一緒に食べていたことがうかがえる。

⑦ 母親自身の現在の環境について

母親たちは現在の自分の環境についてどう思っているかを質問したが表27で示すように「家族のことで何か気になったりストレスに感ずることがある」人は半数以上の52%になっており、前述の育児に対する不安や父親に対する不満を考え合わせると多くの母親たちは家族のことで悩んでいることがわかる。「食事を考えたり調理するのがわずらわしい」は20%弱、「家事・育児に手がつか

表24 現在の父親達に不満がありますか

		ある	ない	無記名	計
実数		430	366	61	857
%		(50.2)	(42.7)	(7.1)	(100.0)
職業	あり	315	230	47	592
	%	(53.2)	(38.9)	(7.9)	(100.0)
業	なし	115	136	14	265
	%	(43.4)	(51.3)	(5.3)	(100.0)
家族形態	核家族	315	235	47	597
	%	(52.8)	(39.4)	(7.9)	(100.1)
態	複合家族	115	131	14	260
	%	(44.2)	(50.4)	(5.4)	(100.0)

表25 不満はどういうことですか(複数回答)

		家庭より 仕事優先	頼りない	自分勝手	その他	不満ありの人数
実数		153	49	178	83	430
%		(35.6)	(11.4)	(41.4)	(19.1)	
職業	あり	108	40	130	66	315
	%	(34.3)	(12.7)	(41.3)	(21.0)	
業	なし	45	9	48	17	115
	%	(39.1)	(7.8)	(41.7)	(14.8)	
家族形態	核家族	114	42	119	68	315
	%	(36.2)	(13.3)	(37.8)	(21.6)	
態	複合家族	39	7	59	15	115
	%	(33.9)	(6.1)	(51.3)	(13.0)	

表26 あなたが子供の頃について

N = 857

	病気やけが多かった	親の育て方に不満が多かった	母以外の人に育てられたこと多かった	家族との食事少ない	店屋もの食事多い	楽しい食事の思い出少ない	つらい思い出多い	小さい子を世話した経験がない
実数	185	154	114	50	19	134	71	264
%	(21.6)	(18.0)	(13.3)	(5.8)	(2.2)	(15.6)	(8.3)	(30.8)

表27 現在の自分の環境について

	家族のことのストレス	周囲の人は非協力	調理がわずらわしい	食事まで手がまわらない	栄養についてあまり関心ない
実数	447	85	165	87	83
%	(52.2)	(9.9)	(19.3)	(10.2)	(9.7)

り食事作りまで手がまわらない」「栄養に関する情報には余り関心がない」と答えている母親はそれぞれ10%前後あり家族にとって団樂の時間である食事作りは母親にとってはかなり負担を感じているようである。

2) 母親学級に対する意見について

育児に対する自信の無さ、情報過多による迷いや不安、家族内の人間関係によるストレスの状態にある母親たちにとり母親学級の充実強化が待たれるが、現在の母親学級に対する印象や期待を中心に、母親学級に出席の有無、出席しなかった理由、出席した会場とテーマ、役立ったことと不満なこと、教えてもらいたい内容とその学習方法、現在の育児と教えられたこととのギャップについて質問した。

① 母親学級への出席の有無と出席しない理由

先ず乳幼児をもつ母親を対象にした学級等に出席したことがあるか否かをみると表28のように出席者は4割強であり出席状況は余り良好とはいえない。母親の職業の有無でみると仕事をもっている母親の方が出席率は低くなっている。学級に出席しなかった人にその理由をたずねると半数以上の人々が「仕事があるから」と答えており

表28 母親学級に出席したことがありますか

		はい	いいえ	計
実	数	360	495	855
	%	(42.1)	(57.9)	(100.0)
職	あり	201	374	575
	%	(35.0)	(65.0)	(100.0)
業	なし	137	121	258
	%	(53.1)	(46.9)	(100.0)

「テレビや本で情報が得られるから」「他に子どもがいるから」「会場が遠い」はそれぞれ10%前後であった。

仕事があるために出席できない母親たちのためには出席し易い日時や場所を選んで開催されねばならず主催者側にとって検討すべき課題であろう。

その他に「学級が開催されているのを知らなかった」と答えている人が多く、この点は主催者側のP.R.の再検討が必要である。

② 出席した会場

今後の母親学級運営の参考のために出席した母親に意見を求めた。先ず出席した会場をたずねたがこれは同時に主催者を知るための設問である。それによると6割は保健所の学級に出席しており、次いで保育所、公民館、病院が16~17%台、幼稚園、集会所がそれに続いていて保健所の学級参加が圧倒的に多い。(表30)

③ 出席した時のテーマ

出席した際のテーマは何であったかをみると表31に示すように「栄養・食事」に関するものが第1位で70%以上の母親が出席している。次いで「生活習慣・しつけ」で51%、三番目が「身体発育」となっている。先きに述べた心配なことの1位が「食事・栄養」2位「生活・育児」、3位「発育・発達」と順位が合致しており、乳幼児をもつ母親たちは子どもの栄養や食事に関すること、生活習慣やしつけ・育児のこと、発育や発達の問題が大きな関心事であることが確認された。この数字は今後学級を実施するに当たり取り上げる学習テーマや内容、学習時間に大いに参考になると思われる。

④ 役に立ったこと

母親たちは栄養・食事、生活や育児、発育発達などさまざまな気がかりな困った問題をかかえているが母親学級に出席したことにより問題が解決したか、子どもを育

表29 出席しなかった理由（複数回答）

		仕事があるから	テレビ・本で情報得られるから	他に子どもがいるから	会場に遠いから	その他	出席しなかった人数
実数		253	54	47	40	128	495
%		(51.1)	(10.9)	(9.5)	(8.1)	(25.9)	
職業	あり	238	31	17	25	93	374
	%	(63.6)	(11.3)	(4.5)	(6.7)	(24.9)	
なし	15	23	30	15	35	121	
	%	(12.4)	(19.0)	(24.8)	(12.4)	(28.9)	

表30 出席した会場はどこでしたか（複数回答）

		保健所	公民館	集会所	病院	幼稚園	保育所	その他	NA	学級出席の人数
実数		218	60	29	59	49	64	22	4	360
%		(60.6)	(16.7)	(8.1)	(16.4)	(13.6)	(17.8)	(6.1)	(1.1)	

表31 テーマは何でしたか（複数回答）

		身体発育	精神発達	栄養・食事	生活習慣しつけ	遊び	問題行動	病気と予防	事故防止と安全教育	その他	NA	学級出席の人数
実数		164	100	258	185	59	26	97	45	8	8	360
%		(45.6)	(27.8)	(71.7)	(51.4)	(16.4)	(7.2)	(26.9)	(12.5)	(2.2)	(2.2)	

表32 出席して役に立つことができましたか

		はい	いいえ	無記入	計
実数		334	22	4	360
%		(92.8)	(6.1)	(1.1)	(100.0)

表33 役に立ったのはどういうことですか（複数回答）

		育て方がわかった	子どもの気持ち	不安が解消	自信がついた	母親同士が話し合えた	その他	無記入	役立ったと答えた人数
実数		93	80	106	54	130	18	3	334
%		(27.8)	(23.0)	(31.7)	(16.2)	(38.9)	(5.4)	(0.9)	

表34 出席して不満がありましたか

		はい	いいえ	無記入	計
実数		89	242	29	360
%		(24.7)	(67.2)	(8.1)	(100.0)

てる上に役に立ったかという側面から母親学級に対する評価をしてもらったが、出席者の大多数の93%が役立ったと答えており母親学級の意義を認めている。役立ったのはどういう点かをみると第一が「母親同志話し合えた」であり4割近い母親達がこれを高く評価している。勿論講義を聞いたことにより「不安が解消し」「自信がついた」り、「育て方や子どもの気持がわかった」「離乳方法や食事の与え方がわかった」というように講義内容を認めている母親も大ぜいいるが、一番高い評価を得た「母親同志話し合えた」は注目に値し学級実施の立案に際しては母親同志が話し合える時間を設ける必要がある。

⑤ 母親学級に対する不満

母親学級に出席した母親の大多数は子どもを育てる上で役に立ったと評価しているが、その反面否定的な評価もあるであろうとの予想に基づき不満の有無を質問した。その結果出席者の四分の一の母親は不満があったと答えている。不満の内容の主なものを挙げると第一は「講義時間が短い、又は長い」という時間に関するもので4割強の母親が不満を訴えている。次いで「内容がつまらな

い(30.3%)」「会場が遠い(22.5%)」「自分の子に当てはまらない(21.3%)」等であった。母親の不満はさまざままで同じ講義時間でも或る母親は短かくて物足りないと感じ、別の母親はそれを長すぎると感じるのですべての母親を満足させることは到底出来ないが、「会場が遠い」という不満は母親学級の出席者だけでなく欠席の理由にもなっているので母親学級を開催するに当り会場の選択は重要なポイントの一つであろう。

⑥ 教えて貰いたいこと

今後の母親学級運営の参考にするために母親たちは学級に対しどのようなことを求めているのか、どのようなことを教えて貰いたいかを質問した。(表36)「すぐに役立つこと」を教えて欲しいという具体的な内容を求めている母親が36.9%で一番多いが、「親としての心構え」や「基礎的な知識」を期待する母親も多く、母親が学級に対して求めているものは多様である。年齢別にみると若い母親ほど「すぐに役立つこと」を教えて貰いたい要求が強い。この要求は子ども数かひとりの母親の方が2人以上子どもがいる母親よりも強く、この結果から年齢が若

表35 不満なのはどのような点ですか(複数回答)

	内容がつまらない	内容が理解できない	当てはまらない	時間が短い(長い)	質問できない	会場が遠い	その他	無記入	不満ありの人数
実数	27	8	19	37	7	20	11	1	89
%	(30.3)	(9.0)	(21.3)	(41.6)	(7.9)	(22.5)	(12.4)	(1.1)	

表36 どういうことを教えて貰いたいですか

	すぐに役立つこと	基礎的な知識	親としての心構え	子ども個々の問題	その他	無記入	学級出席の人数	
実数	133	103	116	77	2	55	360	
%	(36.9)	(28.6)	(32.2)	(21.4)	(0.6)	(15.3)		
年齢別	20代	39	25	25	20	0	6	89
	%	(43.8)	(28.1)	(28.1)	(22.5)	(0)	(6.7)	
	30代	85	62	78	46	1	38	229
%	(37.1)	(27.1)	(34.1)	(18.8)	(0.4)	(16.6)		
40代	6	10	7	7	0	6	25	
%	(24.0)	(40.0)	(28.0)	(28.0)	(0)	(24.0)		
子ども数	ひとり	45	32	22	19	0	9	98
	%	(45.9)	(32.7)	(22.4)	(19.4)	(0)	(9.2)	
2人以上	88	71	93	58	2	45	260	
%	(33.8)	(27.3)	(35.8)	(22.3)	(0.8)	(17.3)		

表37 どのような教え方、学習方法がよいと思いますか（複数回答）

		講義形式	話し合い	実習的指導	その他	無記入	学級出席人数
実	数	70	176	138	10	38	360
	%	(19.4)	(48.9)	(38.3)	(2.8)	(10.6)	
年 齢 別	20代	10	43	42	3	2	89
	%	(11.2)	(48.3)	(47.2)	(3.4)	(2.2)	
	30代	51	113	84	4	24	229
	%	(22.2)	(49.3)	(36.7)	(1.7)	(10.5)	
	40代	5	14	7	2	7	25
	%	(20.0)	(56.0)	(28.0)	(8.0)	(28.0)	
子 ども 数	ひとり	15	33	53	0	5	98
	%	(15.3)	(33.7)	(54.1)	(0)	(5.1)	
	2人以上	54	143	85	10	32	260
	%	(20.8)	(55.0)	(32.7)	(3.8)	(12.3)	

く第一子を育児中の母親は具体的な内容の「すぐ役に立つこと」を教えて貰いたがっているといえよう。

⑦ 学習方法

つきに教え方、学習方法についての意見をみると「話し合い」形式を希望しているのが50%弱で一番多く、次ぎが「実習的指導」の38%であり、一方的な「講義形式」は母親たちに余り支持されていない。先きに述べた母親学級で役に立ったことでも母親同志話し合いができたことを高く評価しており、講師との質疑応答や、母親同志話し合う時間を設けることにより母親学級の学習の効果をより一層高めることができるであろう。「話し合い」形式は年齢を問わず希望する学習方法であるが「実習的指導」は若い母親ほど希望するものが多く（20代47.2%、30代36.7、40代28.0%）、子どもがひとりの母親（54.1%）は、2人以上子どもがいる母親（32.7%）よりもこの学習方法を望んでいるものが多い。即ち若い第一子をもつ母親は育児の経験がないので実習しながら学んでいきたいと考えているようである。先きに母親自身の子どもの頃についての項でも触れたように自分の子どもをもつまで子どもに接したり世話をしたことがない人が3割あったがこのような育児経験のない母親には母親学級において何らかの形で実習的指導を組み入れることも必要であろう。

⑧ 教えられたこととのギャップ

これは母親が現在行なっている育児と母親学級で学習したこととの間にギャップがあったかどうかの質問であ

表38 現在の育児と教えられたこととの間のギャップ

	ある	ない	無記入	計
実	195	140	25	360
%	(54.2)	(38.9)	(6.9)	(100.0)

る。表38に示すように「ギャップがあった」と答えた母親は54%と半数以上になっている。その内容をみると表39のように第一が「理屈はわかるが実行しにくい」の60%であり、次いで「時間と余裕がないとできない」が40%強で、母親たちは母親学級の講義内容を現実には実行しにくい理想的な話と受け止めているようである。特に仕事をもっている母親は「時間と余裕がないとできない」が50%もあり折角出席しても日常の多忙な生活との間に大きなギャップを感じているようである。このような母親の受け取り方は母親学級を開催する側、話をする側にとっても考えなければならない問題であり、学級を開催するに当たってはより具体的な実行しやすい内容を盛りこんだものを提供する必要がある。

⑨ その他

以上①から⑧までは設問に対しての回答であるがその他に学級に対する感想や意見を自由に記入してもらった。その中から主なものを取り上げると母親学級だけでなく「父親学級」「両親学級」を希望している人もかなりあった。また「気軽に母親同志話し合える場がほしい」「近い会場で開催してほしい」「仕事があるので出席しやす

表39 ギャップはどんなことですか

		時間と余裕	経済的に無理	当てはまらない	かけ離れている	実行しにくい	その他	ギャップありの人数
実数		85	12	27	13	116	14	195
%		(43.6)	(6.2)	(13.8)	(6.7)	(60.0)	(7.2)	
年齢別	20代	19	1	5	2	31	3	48
	%	(39.6)	(2.1)	(10.4)	(4.2)	(64.6)	(6.3)	
	30代	54	10	18	8	71	10	123
	%	(43.9)	(8.1)	(14.6)	(6.5)	(57.7)	(8.1)	
	40代	11	1	3	2	8	1	15
	%	(73.3)	(6.7)	(20.0)	(13.3)	(53.3)	(6.7)	
職業	あり	54	7	18	9	65	7	107
	%	(50.5)	(6.5)	(16.8)	(8.4)	(60.7)	(6.5)	
	なし	22	3	8	3	40	7	73
	%	(30.1)	(4.1)	(11.0)	(4.1)	(54.8)	(9.6)	

い日時にしてほしい」「出席した際の子どもの保育をしてほしい」などの要求もそれぞれ数名の母親たら出されている。これらは解決困難なものもあろうができる限り期待に応える努力をし、母親たちの育児の支えとなる母親学級を目指す必要があろう。

以上3種類の質問紙調査の結果から現在の母親については次のことがいえよう。

1. 母親達の多くは育児についての悩みや不安などを持っている。
2. その不安や迷いの中には、育児書や知人や友人からの情報により生じたものも多く含まれている。
3. 父親(夫)の育児への参加については圧倒的に望むものが多いが、直接毎日の育児への参加を希望するものは必ずしも多くない。
4. 保健婦や栄養士のみる母親には、干渉が多く神経質な母親が多い。
5. 母親の多くは家庭内の問題に関してストレスを感じている。
6. 食事を作る事をわずらわしく思ったり、手をかける時間がないという母親が多い。

以上の母親の状況から考えて、それに対応する活動と

して母親学級の充実強化が是非必要と思われるが、現在の母親学級の状況は次ぎの如くであり改善を必要とする部分が多い。

1. 母親達の出席状況は低調である。
2. 母親学級の内容が必ずしも母親達の要求や期待に応じていない。
3. 仕事を持つ母親達の出席が困難である。
4. 学習形態も母親達の望むような話し合いや実習形態のものが少ない。

従って今後母親学級を充実強化するためには、まず母親達が出席し易い日時と場所を選ぶことが先決であり、その内容も母親の期待に応えるものでなければならない。学習法も視聴覚教材の積極的な導入が必要であるし、話し合いや実習も活潑に行われなければならない。講師についても専門家は勿論のこと、地域の育児経験者の中から適当な人を依頼して話し合いに加わってもらうなど、今以上に身近かな問題を徹底的に皆で学ぶようにすれば母親達の母性の成長もごく自然に効果的に行われ、現在問題になっている母性の歪みや未熟などの問題の解決にも役立つはずである。

付1 質問紙調査(1)

乳幼児を持つ母親のための学級に関するアンケート

<実施者用>

今回の調査は、市町村や保健所などで多く行なわれている乳幼児を持つ母親を対象とした学級の内容についてお尋ねしているものです。

いろいろ御面倒な項目も多いとは思いますが、皆様方の御意見をできるだけ今後の学級運営に反映させたいと思っておりますので、御多忙のところまことにおそれいりますが、御記入くださるようお願いいたします。

1. 回答機関・施設名()①

2. 現在、乳幼児をもつ母親を対象とした学級を実施していますか。

1. 実施している

2. 実施していない

②

理由

1. 予算の関係
2. 意義を認めない
3. 他の機関で行っているから
4. その他の理由

()

③

(以下は実施されている場合のみ、お答え下さい)

3. 学級実施中、子ども達の面倒をみますか。

1. 面倒をみる

2. 面倒はみない

④

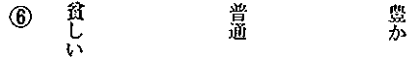
それは誰ですか

1. 保母
2. 保健婦
3. 指導員
4. 市町村の職員
5. ボランティアの人達
6. グループ内の母親達
7. その他()

⑤

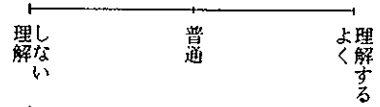
4. 学級に参加した母親についてお尋ねします。(この項は直接実施に当たった方が御記入下さい)

1. 育児や子どもの発達に関する知識はどの程度ですか



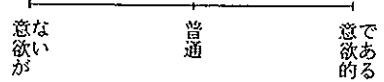
2. 指導に対してよく理解しますか

⑦



3. 学習意欲はどうですか

⑧



5. 父親学級を実施していますか。

1. 実施している → それはどんな内容ですか

2. 実施していない

⑨

{

}

6. 祖父母学級を実施していますか。

1. 実施している → それはどんな内容ですか

2. 実施していない

⑩

{

}

7. 母親を対象とした学級運営の今後の課題について御意見をおきかせ下さい。

1. テーマについて

{

}

2. 会場について

{

}

3. 講師・助言者について

{

}

4. 教材について

{

}

5. 広報活動について

{

}

6. その他

{

}

8. 貴機関・施設において、昨年度（昭和58年）行なわれました。乳幼児を持つ母親のための学級実施内容についておうかがいたします。まず学習テーマとは直接関係ありません。その点を御注意下さい。

学習テーマ（58年度）	実施時期		対象		人数					開催形態				学習形態				学習（単位時間） 総時間 600	学習テーマ番号	
	健診時	それ以外の時	健診対象者	それ以外の人	10名まで	11～20名	21～50名	51～100名	101名以上	レギュラー	シリーズ	一回のみ	臨時	講義	実習	見学	集団討議			
1			101		201					301				401				501	601	1
2			102		202					302				402				502	602	2
3			103		203					303				403				503	603	3
4			104		204					304				404				504	604	4
5			105		205					305				405				505	605	5
6			106		206					306				406				506	606	6
7			107		207					307				407				507	607	7
8			108		208					308				408				508	608	8
9			109		209					309				409				509	609	9
10			110		210					310				410				510	610	10
11			111		211					311				411				511	611	11
12			112		212					312				412				512	612	12
13			113		213					313				413				513	613	13
14			114		214					314				414				514	614	14
15			115		215					315				415				515	615	15
16			116		216					316				416				516	616	16
17			117		217					317				417				517	617	17
18			118		218					318				418				518	618	18
19			119		219					319				419				519	619	19
20			120		220					320				420				520	620	20

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

マを空欄に御記入いただき、その後それぞれにつきまして、項目ごとに○印あるいは数字を御記入下さい。なお緑色の数字は、こちらの整理用のものでア

掛 図	教 材						担 当 者						協 力 機 関						学 習 内 容 の 分 類																		
	パン フレ ット	テ キ ス ト	ス ラ イ ド	ビ デ オ	映 画	な し	700	医 師	歯 科 医 師	助 産 婦	保 健 婦	栄 養 士	心 理 教 育 専 門 家	そ の 他	800	保 健 所	児 童 相 談 所	家 庭 児 童 相 談 室	教 育 機 関	保 育 所	地 域 組 織	そ の 他	900	身 体 発 育 に 関 し て	精 神 発 達 に 関 し て	栄 養 に 関 し て	生 活 習 慣 に 関 し て	遊 び に 関 し て	問 題 児 の 指 導 に 関 し て	小 児 の 疾 病 に 関 し て	安 全 事 故 防 止 に 関 し て	そ の 他	1000				
							701								801									901											1001		
							702								802										902											1002	
							703								803										903											1003	
							704								804										904											1004	
							705								805										905											1005	
							706								806										906											1006	
							707								807										907											1007	
							708								808										908												1008
							709								809										909												1009
							710								810										910												1010
							711								811										911												1011
							712								812										912												1012
							713								813										913												1013
							714								814										914												1014
							715								815										915												1015
							716								816										916												1016
							717								817										917												1017
							718								818										918												1018
							719								819										919												1019
							720								820										920												1020

付2 質問紙調査(2)

貴殿が日常実施されている各種の指導についてお答え下さい。

これは、厚生省心身障害研究・母親学級のあり方に関する研究の一環として実施しているものです。よろしくお願いいたします。

勤務先 _____

職 種 保健婦 助産婦 栄養士

栄養士の方は、番号に○印をつけたもののみ答えて下さい。他の方は全問回答して下さい。

A あなたの指導対象として

- ① 核家族の割合は 約 () % わからない
 ② 里帰り分べんの割合は 約 () % わからない
 ③ 10代の母親の割合は 約 () % わからない
 ④ 働いている母親の割合は 約 () % わからない
 ⑤ 以下の母親についての印象は

当てはまると思う番号を、() 中に記入して下さい。

- 1 : 非常に多い 2 : 多い 3 : それ程でもない
 4 : 少ない 5 : 非常に少ない 6 : わからない

- 神経質な母 () ○健診に非協力的な母 ()
 ○指導に対して真剣でない母 () ○育児を他人に押しつけてしまう母 ()
 ○育児に対して悲観的な母 () ○夫同伴で受診する母 ()
 ○子どもに無関心な母 () ○虐待している母 ()
 ○大人びたしつけを強要する母 () ○干渉の多い母 ()
 ○育児が風潮に流されている母 ()

B 指導の実際

- ① あなたは指導の際、次の事項をどの程度留意していますか？

当てはまると思う番号を () 中に記入下さい。

- 1 : 全く留意しない 2 : どちらかといえば留意しない 3 : どちらともいえない
 4 : どちらかといえば留意している 5 : 強く留意している

- 家族構成 () ○家庭の職業 () ○家庭の経済状態 ()
 ○対象乳幼児の健康状態 () ○対象乳幼児の発育状態 () ○対象乳幼児の発達状態 ()
 ○母親の年齢 () ○母親の就労状況 () ○母親の健康状態 ()
 ○昼間の保育者 () ○祖父母の育児援助 () ○父親の育児参加・援助 ()
 ○住居環境の実態 ()

- ② 偏食・少食などの指導で、次の事項をどの程度留意していますか？

前問と同じ要領で答えて下さい。

- 幼児の精神発達状態 () ○幼児の情緒発達 () ○幼児の身体発育状態 ()
 ○幼児の運動発達 () ○幼児の遊びの状況 () ○幼児の睡眠の状況 ()
 ○幼児の保育者の種類 ()

- ③ 乳幼児の健康増進の指導の際、次の事項をどの程度留意していますか？

前問と同じ要領で答えて下さい。

- 対象児の身体発育状態 () ○対象児の精神発達状態 () ○対象児の運動発達状態 ()
 ○対象児の病気の状況 () ○家族構成 () ○母親の就労の状況 ()
 ○母親の健康状態 () ○対象児の睡眠の状況 () ○乳幼児の遊びの実態 ()
 ○対象児の食生活 () ○住宅の状況 () ○住宅附近の環境 ()

- 対象児の保育の状況 () ○対象児の友達 ()
- ④ 乳幼児の食生活の指導で、次の事項はどの程度おすすめですか？
 当てはまる番号を () 中に記入下さい。
 1：全くすすめない 2：どちらかといえばすすめない 3：どちらともいえない
 4：どちらかといえばすすめる 5：強くすすめる
- ベビーフード () ○follow-upミルク () ○冷凍母乳 ()
 ○スキムミルク () ○いわゆる冷凍食品 () ○乳酸飲料 ()
 ○炭酸飲料 () ○アルカリ飲料 () ○手作りオヤツ ()
- 5 乳幼児の体力増進の具体的方法として、次の事項をどの程度おすすめですか？
 前問と同じ要領で答えて下さい。
- 早起早寝 () ○薄着 () ○乾布・冷水摩擦 () ○戸外運動遊び ()
 ○ベビースイミング () ○体操 () ○マラソン・ジョギング ()
- 6 幼児の言語発達の指導の際、次の事項をどの程度留意していますか？
 当てはまる番号を () 中に記入下さい。
 1：全く留意していない 2：どちらかといえば留意していない
 3：どちらともいえない 4：どちらかといえば留意している
 5：強く留意している
- 対象児の精神発達状態 () ○母親の養育態度 () ○家族構成 ()
 ○祖父母の幼児に対する接し方 () ○兄弟姉妹との遊び方 () ○保育場所 ()
 ○友人関係 ()
- 7 幼児の遊びについて、次の事項をどの程度留意して指導しますか？
 前問と同じ要領で答えて下さい。
- 対象児の運動発達状態 () ○対象児の精神発達状態 () ○対象児の遊びの種類 ()
 ○住居内の安全性 () ○住宅周辺の状況 () ○母親の養育態度 ()
 ○家族の事故発生傾向 ()
- 8 幼児の遊びについて、次の事項をどの程度指導していますか？
 当てはまる番号を () 中に記入下さい。
 1：全くしない 2：どちらかといえばしない 3：どちらともいえない
 4：どちらかといえばする 5：強くする
- テレビを見る時間 () ○友達との戸外遊び () ○親子での戸外遊び ()
 ○汚れを気にしないで遊ばす () ○児童館・児童遊園などの利用 ()
 ○親が短時間でも集中的に相手になること () ○子どものしたいことをさせること ()
 ○事故を気にしないで遊ぶこと ()
- 9 幼児の事故防止について、どのように指導しますか？
 前問と同じ要領で答えて下さい。
- 危険箇所の点検 () ○整理・整とん () ○危険な遊びを禁止できる親の態度 ()
 ○服・はきものに関する注意 () ○危険物を持たせない注意 () ○ハサミなどの使い方 ()
- ⑩ 母子保健に関する知識・知見の導入方法
 当てはまる番号を () 中に記入下さい。
 1：しらない 2：研修会 (公的) 3：私的研修会 4：専門書
 5：一般雑誌・新聞・テレビ・ラジオ 6：その他
- 子どもの早期教育 () ○ドーラ効果 () ○ビタミンK欠乏症 ()
 ○桶谷式乳房マッサージ () ○流行性耳下せん炎のワクチン () ○B型肝炎のワクチン ()
 ○母子相互作用 () ○思春期やせ症 () ○冷凍母乳 ()

以上、ご協力有難うございました。

付3 質問紙調査(3)

「乳幼児をもつ母親のための学級」についてのアンケート調査

私共は国からの委託で「乳幼児をもつ母親のための学級」の実態調査を行なっております。皆様の御意見は、今後のより良い学級運営や指導内容に反映させていきたいと思っております。御多忙中のところ恐縮ですがアンケートに御協力下さいますようお願い申し上げます。なお、回答は個々に取り上げることはありませんので卒直な御意見をお聞かせ下さい。

東京都港区南麻布5-6-8

恩賜財団母子愛育会 日本総合愛育研究所

副 所 長 高 橋 悦 二 郎
 栄 養 部 長 武 藤 静 子
 家庭環境部長 高 橋 種 昭

該当する項目に○印、或いは空欄に回答を御記入ください。

住 所 _____ 都、県、市、_____ 区、郡 _____ 町、村 ①

1) あなたの御家族についておたずねします。

いま一緒に住んでいる方たちをすべて記入して下さい。

続 柄 ②③	性 別 ④	年 齢 ⑤	職 業 ⑥	最後に卒業した学校、又は現在通学している学校 ⑦
記入者本人 2-1	女 4-1	歳 5-1	有 無 6-1	中学 高校 短大以上 7-1
夫 2-2	男 4-2	歳 5-2	有 無 6-2	中学 高校 短大以上 7-2
子ども 2-3	男女 4-3	歳 5-3	有 無 6-3	保育園 幼稚園 小学校 中学校 7-3
2-4	男女 4-4	歳 5-4	有 無 6-4	保育園 幼稚園 小学校 中学校 7-4
2-5	男女 4-5	歳 5-5	有 無 6-5	保育園 幼稚園 小学校 中学校 7-5
2-6	男女 4-6	歳 5-6	有 無 6-6	保育園 幼稚園 小学校 中学校 7-6
祖 父 3-7	男女 4-7	歳 5-7	有 無 6-7	中学 高校 短大以上 7-7
祖 母 3-8	男女 4-8	歳 5-8	有 無 6-8	中学 高校 短大以上 7-8
他() 3-9	男女 4-9	歳 5-9	有 無 6-9	中学 高校 短大以上 7-9

2) 現在、育児に自信がありますか。⑧

1. 自信がある
2. やや自信がない
3. 自信がない

3)-(1) お子さんの生活や食事のことで困ったこと、心配なことがありましたか。⑨

1. なかった
2. あった

(2) あった場合は、つぎのどのような問題でしたか。あてはまるものに○印をつけてください。⑩

1. 発育や発達に関したこと。

(体重や身長がふえない。歯の生え方。ことばが遅かった。歩き始めが遅かったなど。)

2. 病気に関したこと。

3. 栄養や食事に関したこと。

(飲む量や食べる量が少ない。離乳食を食べない。偏食など)

4. 生活や育児に関したこと。

(排泄や睡眠の問題。くせ。友だちの中に入れない。反抗など)

(3) 上のような問題の中に母親学級で学んだことによって解決した問題がありましたか。⑪

1. なかった
2. あった

(4) それはどのような問題でしたか。○印をつけてください。⑫

1. 発育や発達に関したこと。

2. 病気に関したこと。

3. 栄養や食事に関したこと。

4. 生活や育児に関したこと。

4)-(1) 育児について話を聞いたり学んだために余計に迷ったことがありますか。⑬

1. ある 2. ない

(2) 迷ったことがあるとすればそれは何によってですか。⑭

1. 育児書 2. テレビ・ラジオ 3. 友人・知人の話
4. 医師の話 5. 保健婦の話 6. 学級等の集団指導
7. その他 ()

(3) 迷ったのはどのようなことでしたか。具体的にお書き下さい。⑮
()

5) 父親の育児への参加についておたずねします。

(1) 父親が育児に参加することをあなたは望んでいますか。⑯ 1. はい 2. いいえ

(2) どのような参加を望んでいますか。⑰

1. いつも育児を手伝う 2. 時どき困った時などに手伝う
3. 母親の精神的な援助 4. その他 ()

(3) 現在の父親達に不満がありますか。⑱ 1. ある 2. ない

(4) 不満があるとすればそれはどのようなことですか。⑲

1. 家庭より仕事を優先 2. 頼りない 3. 自分勝手
4. その他 ()

6) 乳幼児をもつ母親のための学級についておたずねします。

(1) 学級に出席したことがありますか。⑳

1. はい 2. いいえ

(2) 出席しなかった理由は何ですか。㉑

1. 仕事があるから 2. テレビや本等で情報が得られるから
3. 他に子どもがいるから 4. 会場が遠いから
5. その他 ()

(3) 学級に出席した方におたずねします。それはどこでしたか。該当するものに全部○印をつけてください。⑳

1. 保健所
2. 公民館
3. 集会所
4. 病院
5. 幼稚園
6. 保育所
7. その他 ()

(4) テーマは何でしたか。出席したものの全部に○印をつけて下さい。㉑

1. 身体発育
2. 精神発達・言語の発達
3. 栄養・食事
4. 生活習慣・しつけ
5. 遊び
6. 問題行動
7. 病気と予防
8. 事故防止と安全教育
9. その他 ()

(5) 出席して役に立つことができましたか。㉒

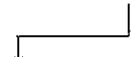
1. はい
2. いいえ

(6) 役に立ったのはどういうことですか。㉓

1. 育て方がわかった
2. 子どもの気持ちがわかった
3. 不安が解消した
4. 自信がついた
5. 母親同志話し合えた
6. その他 ()

(7) 出席して不満がありましたか。㉖

1. はい 2. いいえ



(8) 不満なのはどのような点ですか いくつかもおつけ下さい。㉗

1. 内容がつまらない 2. 内容がよく理解できない
3. 自分の子に当てはまらない 4. 時間が短い, 又は長い
5. 質問できない 6. 会場が遠い 7. その他 ()

(9) どういうことを教えて貰いたいですか。㉘

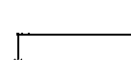
1. 実際にすぐ役立つこと
2. 子どもを理解するための基礎的知識
3. 親としての心構え
4. 自分子ども個々の問題
5. その他 ()

(10) どのような教え方, 学習方法がよいと思いますか。㉙

1. 講義形式 2. 話し合い形式
3. 実習的指導
4. その他 ()

(11) あなたが現在行なっている育児と, 教えられたこととの間にギャップがありましたか。㉚

1. あった 2. ない



(12) あるとすればそれはどのような点ですか。㉛

1. 時間と余裕がないとできない
2. 経済的に無理がある
3. 自分の子に当てはまらない
4. 自分のやり方とかけ離れている
5. 理屈はわかるが実行しにくい
6. その他 ()

7) あなたご自身のことについて、()の中にあてはまるものに○、あてはまらないものに×をつけて下さい。

(1) あなたが子供の頃 ㉔

1. 自分は病気やけがをすることが多かった ()
2. 親の育て方に不満が多かった ()
3. 自分の母親以外の人に育てられることが多かった ()
4. 家族と一緒に食事をするのはあまりなかった ()
5. 既製品、インスタントもの、店屋物の食事が多かった ()
6. 食事に関する楽しい思い出が少なかった ()
7. 子どもの頃はつらい思い出が多い ()
8. 自分の子どもをもつまで、赤ちゃんや小さい子どもに接したり、世話をした経験がない。 ()

(2) 現在のご自分の環境について ㉕

1. 家族のことで何か気になったり、ストレスに感じることもある ()
2. 育児について、周囲の人は協力的でない ()
3. 食事を考えたり、調理するのがわずらわしい ()
4. 家事、育児、雑用に手がかかり、食事作りまでまわらない ()
5. 栄養に関する情報にはあまり関心ない ()

8) 「乳幼児をもつ母親のための学級」についてのご意見がありましたらご自由にお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。